

正泉寺遺跡の調査は、昨年度から始まり今年で2年目となります。4月14日から始まった調査は、暑い夏を越え、遠くの山に雪が積もり始めた12月18日に終了しました。

発見された主な遺構は古墳時代～奈良・平安時代の<sup>たてあな</sup>竪穴建物跡81軒、土坑175基、溝状遺構6条、<sup>ほったてばしら</sup>掘立柱建物跡1棟、弥生時代の流路跡1条。縄文時代の土坑2基。そのうち竪穴建物跡は全体の約9割が7区でみつけられました。

7区からは、飯田地域では珍しい「箸置き」に使われたと考えられている<sup>みみざら</sup>素焼きの耳皿が出土（SB84）しています。また、平安時代の竪穴建物跡では川原石を芯材としたカマドが構築されていました。

古墳時代～奈良・平安時代の集落の下層からは弥生時代の流路跡（SD9）がみつき、たくさんの弥生土器が出土しました。また、縄文時代中期の土器が出土した土坑もみつけられました。

正泉寺遺跡周辺の<sup>ざこうじ</sup>座光寺・<sup>かみさといいぬま</sup>上郷飯沼地区は比較的平坦な段丘地帯で、今年度から調査が始まったママ下遺跡、令和3年から調査を行っている<sup>ごらた</sup>五郎田遺跡、近年調査された<sup>どうがいと</sup>堂垣外遺跡や<sup>にしうら</sup>西浦遺跡など数多くの遺跡が密接して存在しています。これらの遺跡の北東約1km（元善光寺駅の南東約100m）には古代伊那郡の<sup>ぐんが</sup>郡衙（役所）跡と推定されている



素焼きの耳皿（SB84）



竪穴建物跡（SB93）



川原石を用いたカマド（SB93）



弥生時代の流路跡（SD9）

右上：流路跡から出土した弥生土器

ごんが  
恒川遺跡群が存在します。座光寺・上郷飯沼地区に展開するこれら古代の遺跡は、役所を中心として成立し栄えたムラの跡と考えられます。

近年、リニア中央新幹線建設に伴う発掘調査で数多くの出土品や情報が得られています。今後これら貴重な成果から、座光寺・上郷飯沼地区周辺の古代のムラの様子が更に明らかになっていくことと思います。



作業風景（図面の整理作業）

令和8年3月17日～5月10日「掘るしん2026in 飯田」が飯田市考古博物館で開催されます。耳皿も展示されますので皆さんお越しください。詳しくはHPをご覧ください。



長野県埋蔵文化財センター 飯田支所

〒395-0151 飯田市北方297-5

電話：0265-49-0736

メール：[maibun@naganobunka.or.jp](mailto:maibun@naganobunka.or.jp)

H P：<https://naganomaibun.or.jp/>

担当：長谷川/丸山/藤原/高橋